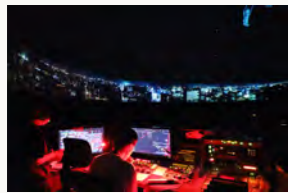


活動報告

博物館実習

2022年8月24日(水)～8月29日(月)



当館では毎年、学芸員資格取得を目指す大学生を対象とした博物館実習を行っています。熊本博物館は総合博物館ということもあり、人文系と自然系に分かれて6日間の実習に取り組んでもらいました。

人文系は歴史、美術工芸、考古、民俗の分野で実物資料の取り扱い方法や調書の取り方などを体験してもらい、自然系では動物、植物、地質、天文の分野で標本の作成方法や取り扱いなど実践的な内容を学ぶ機会を設けました。全体としては、博物館の運営や子ども科学・ものづくり教室、資料保存の方法などの業務体験も取り入れ、大学で受けた授業とのすり合わせや自身の専門分野にまつわる新しい発見があったのではないかと思います。

実習最終日には、班ごとに作成した展示を紹介し合い、見てほしいところや工夫したことなどについて発表をしてもらいました。当館職員も刺激を受けるものばかりで実に学びの多い博物館実習となりました。

(保存科学担当：坂本)

資料紹介

徳光屋烏犀円とくみつや うさいえん かんぱん こうこくの看板と広告

今回紹介する資料は烏犀円という薬の看板と広告です。どちらも徳光屋(渡邊)敬右衛門家に関する資料です。徳光屋は明治19年出版の『熊本商家繁昌図録』にも掲載されている薬種商で、そこで販売されていたのが烏犀円という薬です。烏犀円は様々な病気に効く万能薬として、江戸時代、熊本をはじめ各地で秘薬として生産されていました。看板には「烏犀円」と大きく書かれ、徳光屋の主力製品であったと思われます。

画像1は徳光屋が出していた烏犀円の広告です。そこには、烏犀円は「中風肝症の妙薬」で普通の人は容易く服薬できないものでしたが、明治維新後、国が徳光屋の烏犀円を医薬に乏しい人たちにまで広めるよう許した、とあります。

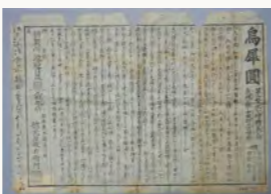
広告からは一廻入と半廻入の2種があり、焼物に入れて販売されていたこともわかります。この徳光屋烏犀円の磁器容器は熊本城本丸御殿跡の発掘調査でも出土しています。看板、広告、容器と熊本での烏犀円販売の様子を伺うことの出来る面白い資料と言えます。

参考文献：熊本城調査研究センター、2016、『熊本城発掘調査報告書2』

(民俗担当：湯川)



画像1 烏犀円看(当館蔵)



画像2 烏犀円広告(当館蔵)

博物館からのお知らせ

ミュージアムキャラクターアワード 2022 シャチベえ5位入賞!



博物館のキャラクター日本一を決める『ミュージアムキャラクターアワード』が今年も開催されました。昨年に引き続き、シャチベえもエントリー! 2回目の出場を果たしました。スタートダッシュではかなり上位でしたが、結果は5位! 少し悔しい結果となってしまいましたが、昨年より順位を上げることが出来ました。

期間中には、たくさんの熱い応援コメントをいただきました。投票、そして応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました!



熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER Vol.9
発行 熊本博物館
〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL.096-324-3500 FAX.096-351-4257
kumamoto-city-museum.jp



くまはく

NEWS LETTER

Vol.9



あつまれ!

地域の宝もの

2022年

10/15(土) ▶▶▶ 11/20(日)



熊本市域にのこる
文化財の“ミリヨク”!



これからもずっとくまはく

熊本博物館 70th
KUMAMOTO CITY MUSEUM SINCE 1952

2022年11月

- 企画展案内
あつまれ! 地域の宝もの
- 特別展報告
世界の大翼竜展
- 活動報告
インターンシップ
夏季教職員研修
博物館実習

- イベント報告
天文講演会
JAL 航空教室
- 資料紹介
徳光屋烏犀円の看板と広告
- 博物館からのお知らせ
ミュージアムキャラクターアワード 2022

企画展案内

秋季企画展 **あつまれ!地域の宝もの**

2022年10月15日(土)～11月20日(日)

2022年は、熊本博物館創立70周年と熊本市政令指定都市移行10周年という節目の年です。本展はその節目を記念して、現在の熊本市域に所在する国・熊本県・熊本市の指定文化財の中から、選りすぐりの文化財をご紹介します。

「熊本市の文化財」と聞いて皆さんはどういったものか思い浮かぶでしょうか。実は「指定文化財」となっている、意外と知られていないものも多くあります。せっかく「熊本市の宝もの」として指定されても、知られていなければその保護や活用には繋がりません。熊本市というわたしたちにとって身近な地域の中にどういった文化財が存在するのか、本展がその再確認の機会になればと思っています。

一方で、指定文化財を知ること、指定されていない文化財(「未指定文化財」などともいわれます)を知ることにもなります。指定されていないからといって大事ではないというわけではありません。自分たちの地域にとっての宝ものとは何か、身近な地域にどのようなものが眠っているのか…本展が改めて目を向けていただくきっかけになれば幸いです。

(美術工芸担当:竹原)

特別展報告

世界の大翼竜展

2022年7月16日(土)～9月4日(日)

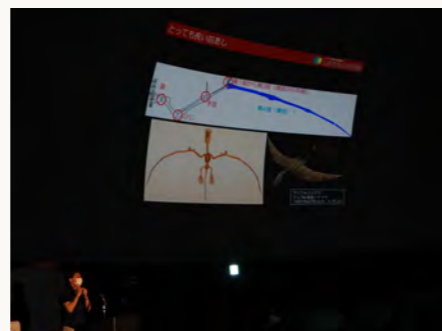
熊本博物館創立70周年記念展として、中生代の空飛ぶ爬虫類“翼竜”をテーマとした特別展を開催しました。熊本県内で最初に翼竜化石が発見されてからちょうど30年の節目にもあたる本年、その多様な姿や飛行能力向上のための驚くべき進化、種ごとに異なる特異な生態など、最新の研究に基づき総合的にご紹介しました。

7月31日(日)には関連イベントとして北九州市立・自然史歴史博物館の大橋智之主任学芸員をお招きし、「翼竜という生きもの」という演題で翼竜の生物学的特徴や進化の道のりについて分かりやすく講演いただきました。

さらに、会期中はプラネタリウムにて翼竜が主役のプラネタリウム番組「フライングモンスター」を放映し、展示ともリンクする内容を3DCGの大迫力映像でお楽しみいただきました。

夏休み期間に開催した本展は、連日恐竜や翼竜の絵柄の服を着た子どもたちや家族連れで賑わい、熊本博物館は文字通り翼竜一色となりました。

(地質担当:南部)



活動報告

インターンシップ

2022年7月6日(水)～7月7日(木)

熊本県立湧心館高校の2年生4名が2日間にわたり博物館の業務を体験的に学びました。1日目は館内外の施設を見学し、保存科学・天文・動物・美術工芸分野について、2日目は植物・理工・考古分野と広報について職員や学芸員のもとで業務をしました。学芸各分野ならではの特色ある活動の一端に触れる機会となり、すべてが初めての体験であったことから、生徒の皆さんも大変興味をもって取り組んでいました。今回の体験が参加した皆さんの将来への道標になれば良いと思います。

3日間の予定が台風接近に伴い2日間に短縮され、予定していた業務のすべてを体験してもらえなかったことが残念でした。

(考古担当:稲津)



活動報告

夏季教職員研修講座

2022年8月22日(月)



当館が夏季休業期間中に行っている博学連携事業の一つに、「教職員向け研修講座」があります。今年もコロナ禍のために参加人数を極力絞って(10名程度)実施しました。当館の博学連携事業は、学校団体を館内に迎えて行う「お迎え事業(メイン)」と、職員が学校に出向いて行う「お出かけ事業(サブ)」を2本柱として多種多様な事業を体系的に位置付けて展開しています。

研修講座では「お迎え事業」のために作成した「館内学習プログラム集:第2版(全54題材:HPにて閲覧可)」をテキストに、各学芸班職員が掲載している収蔵資料や教材・教具の魅力や価値をパワポを使って紹介したり実演したりして時間の許す限り丁寧に、かつ熱く伝えていきました。先生方の納得の表情や顔しながら聞き入っておられる姿がとても印象的で、研修後のアンケートには「今回、じかに本物を見て、解説を聞きながら(プログラムの)体験をしてみ、本物にふれる必要性を感じました。館内学習がとても楽しく、子どもたちにも勧めたいと思いました。」…、といった好評が綴られていました。また次年度もお楽しみに!

(理工担当:山口)

イベント報告

天文講演会「究極の電波望遠鏡で迫る宇宙の謎」

2022年7月2日(土)



夏の天文講演会として、熊本大学大学院先端科学研究部研究員 宮下恭光 氏を講師としてお迎えし、現在建設中の史上最大の電波望遠鏡についてお話いただきました。

今回は、プラネタリウムで星空解説をするのが夢だったという宮下氏が実際にプラネタリウムを操作しながらご講演され、七夕直前の実施ということで、当日の星空の解説・七夕の物語の紹介から始まり、講師の先生による星空解説は初の試みだったのですがいかがだったでしょうか。星空解説の後には、電波天文学の基礎に始まり、一般的にイメージする望遠鏡とは全く違った形状を持つ電波望遠鏡の仕組みや発展の歴史に加え、多くの方が関心を寄せる地球外生命探査やブラックホールについてもユーモアも交えながら解説していただくなど、あっという間の90分間でした。

熊本の若手研究者である宮下氏とは今後も協力し、楽しく宇宙・天文について学べるイベントを実施できればと検討しています。どうぞご期待ください。

(天文担当:野村)

JAL航空教室

2022年8月21日(日)

夏休みイベントの一つとして、JALの皆様のご協力で「JAL航空教室in熊博」を開催いたしました。定員36名に対し、300名を超える多くの応募をいただきました。

JAL航空教室は、空の素晴らしさに触れることで、新たな発見やさらなる学びを得て、未来を考える機会を提供するため、JALグループが実施しているイベントです。始めに「お仕事講座」と題して、運航乗務員と客室乗務員の方から航空機の運航や、空、地球、環境について、子どもたちに分かりやすくお話ししていただきました。参加者はとても興味深そうに話を聞いており、クイズが出題されると積極的に回答するなど、大盛況でした。

また、併せて「折り紙ヒコーキ的入れゲーム」と「制服なりきり体験」も開催しました。自由参加のため、開催時間前から行列ができるほどの賑わいぶりとなりました。紙飛行機の飛ばし方のコツを聞きながら何度も挑戦する姿や、制服を着て嬉しそうにポーズを決める子どもたちの姿がとても印象的でした。

(総務企画班:古庄)

